

第二期中期目標期間（4年目終了時）に係る 主な業務実績（見込）に関する報告

令和5年6月
兵庫県公立大学法人

中期計画 グローバル社会で活躍できる人材の育成【小項目1（1）教育：ア】

- 全学的なグローバル教育の推進【1】
- ポストコロナを見据えた国際交流の構築と高度外国人材の育成【2】

自己評価
b

令和元～4年度の主な実績

国際商経学部グローバルビジネスコース（GBC）

- 平成31年4月、経済学部と経営学部を再編し開設した国際商経学部にて、**すべての科目を英語で学び経済学の学位を取得**するグローバルビジネスコースを設置
- 令和2年度に文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に**公立大学で唯一採択**。優秀な外国人留学生の受入に努めた。〔R元～4：約150名受入（20以上の国・地域）〕
- コロナ禍において、入国制限により来日できない留学生に対してオンライン授業を実施。教育の質を確保するとともに、グループワークやディスカッションなどの工夫を凝らし、授業への積極的な参加を促進

副専攻 グローバルリーダー教育プログラム（GLEP）

- 各学部で学ぶ専門知識に加え、実践的な英語コミュニケーション能力やグローバルリーダーとしての素養・能力を有する人材育成を目指し、副専攻として引き続き開講〔R元～4履修者計：約250名〕
- **コミュニケーション力の伸長とリーダーシップ力の育成を重視**したプログラムへと見直しを実施（R2）

国際交流センターを中心とした全学的な取組など

- 国際交流センターにおいて、**海外大学とICTを活用した交流プログラムの実施**など、全学的に国際交流を推進〔カンパセーションパートナー・プログラム参加延べ人数（R2～4）：約450名〕
- 学生の留学先の確保、国際的なネットワークの構築を図るため、**海外大学との新たな学術交流協定の締結**を促進〔H30：19大学（11か国・地域）→R4：36大学（16か国・地域）、17大学増〕

今後の取組予定

- ICTを活用し、海外大学との間で授業科目の連携、学位プログラムの連携を検討
- 全学において優秀かつ多様な外国人留学生の受入を促進

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ 英語で行われている講座数（全学）（講座）

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	132	180
目標	令和6年度：150講座			

- ・令和4年度、中期計画変更で新たに目標として設定
- ・令和4年度実績において**目標を達成**

■ 国際学会で発表した学生数（全学）（人）

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	58	116
目標	各年度：80人			

- ・令和4年度、中期計画変更で新たに目標として設定
- ・令和4年度実績において**目標を達成**

■ 外国人教員比率（%）

	R元	R2	R3	R4
県立大	2.9	2.9	3.1	3.4
目標	令和6年度：5%			

- ・残り2年間で9人（R5.4.1教員数で算出）。引き続き取組を推進するが、目標達成は困難な見込

【Topics】大学ランキング2024（朝日新聞出版）

公立大学ランキング

国際化「外国人留学生（学部）」**全国1位**



国際化

外国人留学生(学部)

大学	人
1 兵庫県立大	137
2 周南公立大	90
3 東京都立大	87
4 北九州市立大	76
5 高崎経済大	75
6 福岡女子大	67
7 大阪市立大	55
8 静岡県立大	51
9 横浜市立大	50
10 会津大	46
11 下関市立大	42
12 都留文科大	41
13 大阪府立大	40

外国人教員

大学	人
1 会津大	39
2 大阪公立大	37
3 北九州市立大	32
4 国際教養大	32
5 東京都立大	30
6 愛知県立大	18
7 長崎県立大	18
8 名古屋市立大	15
9 新潟県立大	15
10 兵庫県立大	15
11 島根県立大	13
12 秋田県立大	12
13 神戸市外国語大	12

第二期中期目標期間に係る主な業務実績（見込）の報告

中期計画

地域のニーズに応える専門人材の育成【小項目1（1）教育：イ】 高度な専門性を有する人材の育成【小項目1（1）教育：ウ】

- 大学院における専門教育の充実【4】
- 社会の変化に的確に対応した大学院改革等の検討と推進【5】
- 国際商経学部・社会情報科学部の開設と充実【6】

自己評価
b
(両項目とも)

令和元～4年度の主な実績

- 経済学部と経営学部を再編し、**国際商経学部と社会情報科学部を開設**（H31.4）。すべての科目を英語で学び経済学の学位を取得する国際商経学部GBCや社会情報科学部での企業と連携した実践教育など、特色ある教育を展開
 - ・完成年度（R4）を迎え、社会情報科学部は接続する情報科学研究科に**1／3以上が進学**。就職率は**100%**
 - ・国際商経学部の**就職率は99.6%**で、商社、国際物流等など国際的な業務に関わる企業等へ多く就職
- 令和3年4月、大学院を再編し、**社会科学部、理学部、情報科学研究科の3研究科を開設**〔情報科学研究科（博士前期課程）入学志願者 R3：62名/定員60、R4：82名/定員60、R5：110名/定員80〕
- 先端医療工学研究所に分野横断的に履修可能な**オープン大学院を開設**（R4.4）〔R4：7科目、延べ80名受講〕

今後の取組予定

- 理工系分野における女子学生、外国人留学生の受入を促進するための取組を実施
- デジタル・グリーン等の成長分野の人材育成に向けた学部等の改編を検討

中期計画

人材育成に向けた教育システムの充実（コロナ禍における教育・学生支援）

- ポストコロナにおける新たな教育手法の確立【9】 【小項目1（1）教育：オ】
- 多様なニーズに対応した学生生活の支援【12】

自己評価
a

令和元～4年度の主な実績

- 緊急事態宣言時や入国制限で来日できない留学生向けに**オンライン授業を実施し、学修の機会を確保**。一方、対話・交流の促進、実習・実験の機会の確保などの観点より、**令和2年度後期からできる限り対面で授業を実施**〔R2後期の対面授業率：70%以上〕
- コロナ禍によるオンライン授業の拡大を受け、**姫路環境人間キャンパスに最新デジタル技術で学びをサポートするDX教室を整備し運用を開始**
- コロナ禍においても充実した学生生活を送れるよう様々な支援を実施
 - ・Web授業の受講が困難な学生に対し、**パソコン・ルーターを貸出**〔R3：パソコン210台、ルーター430台〕
 - ・**授業料等減免制度の拡充**（新入生の入学料・前期授業料を対象化）。**家計急変者への支援を新たに制度化**
 - ・アルバイトに代わる収入機会を付与（例：オンライン授業の補助業務など）〔R2～4：270人が活用〕
- コロナワクチンの**大学拠点接種を実施**。学生・教職員の接種を促進〔計2回（12日間）、延べ5,600人へ接種〕

今後の取組予定

- コロナ禍の経験を生かした対面とオンラインの利点を組み合わせた教育手法を確立
- 令和4年度から本格導入したBYODの効果を最大限に生かし、参加意欲や学習効果を向上させる授業を展開するとともに、オンライン通信環境のさらなる充実を図る。

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ 入学者志願倍率の状況（一般選抜） (倍)

実施年度	R元	R2	R3	R4
一般選抜	6.3	7.0	6.1	6.8
(公立大学全国平均)	6.0	5.9	5.7	5.6

- ・毎年度、**目標（公立大学全国平均以上）を達成**
- ・一般選抜：全学部計 925名
(学校推薦型選抜等372名、合計（募集定員）1,297名)

■ 就職率（学部）の状況 (%)

実施年度	R元	R2	R3	R4
就職率	99.1	96.3	97.8	99.0
(全国平均)	98.0	96.0	95.8	97.3
(参考) 進学率	23.8	27.6	29.2	31.3

- ・毎年度、**目標（全国平均以上）を達成**

【参考】国際商経学部・社会情報科学部の就職状況（R4）

- 国際商経学部
楽天、麒麟ホールディングス、双日、三菱倉庫、あずさ監査法人、三井住友銀行、日本生命、兵庫県庁など
- 社会情報科学部
コベルコシステム、NECソリューションイノベータ、NTTドコモ、西日本電信電話、さくらケーシーエスなど



7台のWi-Fi機能を有した最新プロジェクターと全面ホワイトボードを導入したDX教室

中期計画

高度な研究基盤を活用した先端研究の推進【小項目1（2）研究：ア】

兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進【小項目1（2）研究：ウ】

- ニュースバル等の多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進【19】
- 異分野融合研究の推進【20、21】
- グリーントランスフォーメーション（GX）に関する研究の推進【25】

自己評価

a

（両項目とも）

令和元～4年度の主な実績

- 情報科学研究科では、**スパコン富岳を活用した最先端研究**など、高い研究力を発揮
 - ・ 令和5年度の科学研究費助成事業において、情報学基礎論関連分野の**部局別採択件数で全国1位を達成**
 - ・ 井上教授が**スパコン富岳を用いた大規模シミュレーション研究**により「**ナイスステップな研究者※2021**」に選定
※ブレイクスルーとなる研究業績をあげた若手研究者を文部科学省が選定。過去にはノーベル賞受賞者となった山中伸弥教授や天野浩教授も選定
 - ・ 次世代の移動通信システム**6Gの実現に不可欠な暗号技術の開発**に、情報科学研究科等のグループが**世界初成功**
- 高度産業科学技術研究所では**ニュースバル専用の新入射器を建設**。令和3年度から運用を開始し、約20%の放射光強度の増強を達成し、強力かつ安定的な運転を実現〔R4共同研究等（**極端紫外線リソグラフィ関連の基盤技術開発**）：22社〕
- 自然・環境科学研究所では、**なゆた望遠鏡**を用いて国内外の大学等と共同研究等を実施〔R元～4：延べ75グループ〕
- 学長の「特色・個性化経費」を活用し、先進的で特色ある研究に加え、新型コロナ関連研究、SDGs関連研究、GX・カーボンニュートラル関連研究などの学内研究を支援し、研究水準の向上を図った。
〔新型コロナ関連研究（R2、3）：約2,300万円（約20件）、SDGs、GX・カーボンニュートラル関連研究（R4）：約2,200万円（5件）〕
- 「**カーボンニュートラルの実現に向けた水素社会形成拠点**」の構築を目指し、県・姫路市・企業等と共同で「共創の場形成支援プログラム（JST外部資金）」に申請（令和4年度）。新たな研究拠点の設置に関する検討などに取り組む。

今後の取組予定

- 本学が有するニュースバルやなゆた望遠鏡に加え、スパコン富岳やSPring-8などの県下の高度な研究基盤を活用した研究を引き続き推進
- 水素エネルギー共同研究センターを中心に、学内の関係附置研究所や研究科に加え、自治体・関係企業等と共同し、グリーン水素関連研究を推進

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ **査読付き論文数** (本)

	R元	R2	R3	R4	平均
実績	909	1,204	1,228	1,201	1,136
目標	6年間平均：1,150本				

・ **計画策定時の目標を達成済**（800本）。R4に上方修正

■ **外部資金獲得額** (億円)

	R元	R2	R3	R4	平均
実績	20.9	20.1	20.7	20.3	20.5
目標	6年間平均：20.0億円				

・ **R4年度末時点で目標を達成中**。R5,6も同程度以上の獲得が想定されるため、**目標を達成する見込**

【Topics】

情報科学研究科 井上准教授（現教授）がナイスステップな研究者に**県立大から初選定**



【Topics】

情報科学研究科 五十部准教授（現教授）等のグループが、6G実現に不可欠な暗号技術の開発に**世界初成功**

R4.1.5 神戸新聞

R3.12.27
兵庫ジャーナル

第二期中期目標期間に係る主な業務実績（見込）の報告

中期計画 **未来社会を先導する産学官連携の推進** 【小項目1（3）社会貢献：ア】 自己評価 **b**

- 産学官・医産学看の連携の推進【27、32】
- 成長分野を支援する中核的機能の充実【28】

令和元～4年度の主な実績

- 令和4年度に開設の先端医療工学研究所に、企業2社からの寄附を受け、**イノベーションサロン**を開設。医産学看の連携を推進【R4企業との意見交換会：8回（企業30名、看護師35名参加）】。また、隣接する県立はりま姫路総合医療センターや神戸大学病院等と共同研究を実施【R4：20件以上】
- 産学連携・研究推進機構内に新たに**人工知能研究教育センター**（H31）、**金属新素材研究センター**（H31）、**DXサポートセンター**（R3）を設置するなど、産業界との連携を推進
- **中小企業のDX人材育成**のためWeb教材を作成。県・工業会と連携した**リスキリング教育**を実施【R4受講：70名】

今後の取組予定

- 本学のリソースや知見を活用し、社会人向けDXリスキリング教育や地元企業等との共同DX事業（実証実験）を引き続き実施
- 先端医療工学研究所イノベーションサロンにおいて、令和4年度の意見交換の成果を踏まえ、実現可能性調査の実施やデータヘルス等に関する共同研究・共同事業化に向けた取組を推進

中期計画 **大学が有する資源の地域社会における活用** 【小項目1（3）社会貢献：イ】 自己評価 **a**

- 県民ニーズに応える公開講座等の充実【33】
- 自治体・地域団体との連携の強化【34】

令和元～4年度の主な実績

- 学部・研究科の**特色ある教育・研究資源を生かした公開講座を開催**【延べ受講者（R元～4）：10,900人】
- 本学の特徴を生かした**特色ある講演会等を主催**。それぞれ好評を博し、**大学のプレゼンス向上**に寄与
 - ・ 阪神・淡路大震災25年記念事業「人を守る減災の科学」【R元：約300名】
 - ・ 西はりま天文台30周年記念事業「宇宙天文科学シンポジウム」【R3：約300名】
 - ・ 環境人間学研究科開設20周年記念式典「気候変動と国連SDGsがもたらす未来」【R4：約430名】など
- 看護学部等では、新型コロナ対応として、兵庫県と共同し、県内の看護系大学による**保健所の支援体制を構築**。加えて、保健所等の積極的疫学調査・ワクチン集団接種業務等に**教員・大学院生が積極的に協力**【協力延べ人数 R3：約270人 R4：約100人】

今後の取組予定

- 新長田キャンパスプラザ（仮称）を、リカレント・リスキリング学習拠点、産学融合型スタートアップ支援拠点等として、令和6年度の開設に向け体制等を検討

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ **受託研究・共同研究数** (件)

	R元	R2	R3	R4	平均
実績	337	245	239	246	267
目標	6年間平均：300件				

・残り2年間で733件（367件/年）。引き続き共同・受託研究を推進するが、目標達成は困難な見込

【Topics】

令和4年4月に開設した先端医療工学研究所において、同年6月、開所記念フォーラムを開催



R4.7.9 神戸新聞

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ **公開講座の延べ受講者数** (%)

	R元	R2	R3	R4
実績	3,792	2,326	2,364	2,417
目標	各年度：2,500人			

・策定時の目標を達成し（1,500人）、R4に上方修正

■ **地域連携事業の実施件数** (件)

	R元	R2	R3	R4	平均
実績	453	599	786	1,047	721
目標	6年間平均：650本				

・策定時の目標を達成し（350件）、R4に上方修正

■ **SDGsに係るフォーラム開催件数** (件)

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	—	7
目標	各年度：3件			

・令和4年度、中期計画変更で新たに目標として設定
・令和4年度実績において**目標を達成**

第二期中期目標期間に係る主な業務実績（見込）の報告

中期計画

芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成 人材育成に向けた教育システムの構築

- 芸術文化及び観光のマネジメント能力の養成【37】
- 芸術文化及び観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程の編成【40】
- 高度な実践力と豊かな創造性を育成する教育手法の導入【43】

自己評価
b
(両項目とも)

令和3～4年度の主な実績

- 「芸術文化と観光」「アートマネジメント概論」など、両分野の軸となるコア科目群を配置し、コア科目群の中に両分野の教員による「地域創生論」や「芸術文化・観光プロジェクト実習」など**相互アプローチ科目**を配置〔「芸術文化と観光」の学生理解度は2年連続80%以上〕
- 言語及び身体コミュニケーション能力の基礎的な能力を修得させるため、「コミュニケーション演習（必修）」「身体コミュニケーション実習」等を開講
- クォーター制を導入し、理論（系統学修）と実践（経験学修）を交互に行う**ラーニング・ブリッジング**により学生の学びを**深化**させる教育方法を導入

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ 「芸術文化と観光」の学生理解度 (%)

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	91	84
目標	各年度：80%			

・毎年度、**目標を達成**

■ 海外の大学との協定件数 (件)

	R元	R2	R3	R4
実績 (累計)	—	—	6 (6)	3 (9)
目標	R6年度：10件（累計）			

・R5,6の取組により、**目標（累計10件）を達成する見込み**

今後の取組予定

- 完成年度を見据えたカリキュラムの編成及び両分野が関連した授業の改善策を検討

中期計画

地域活性化に貢献する専門職業人の育成【小項目2（1）教育：イ】 世界に通じる専門職業人の育成【小項目2（1）教育：イ】

- 地域を活性化し我が国に活力をもたらす人材の育成【38】
- 実践的な語学教育と国際感覚の醸成【39】

自己評価
b
(両項目とも)

令和3～4年度の主な実績

- 地域で新たな事業を創出できる人材を育成するため、**但馬地域を中心とした地域社会をフィールド**に、国際的な演劇祭や宿泊業、旅行事業、地域創生等の実習を展開
- 海外の大学との協定を**令和3年度に6件、令和4年度に3件締結**し、**令和4年度には開学後初となるドイツへの海外実習**や**中央大学校（韓）への交換留学生の派遣**など、グローバル人材養成に向けた国際交流事業を本格的に開始した。
- 海外映画の視聴を通じた海外事情の発表や学生自身の考えを英語で発表するなど、英語の4技能をバランスよく修得するための講義を実施

【Topics】

海外実習の様子
(ドイツ)



今後の取組予定

- 教育課程連携協議会において、産業界及び地域社会と連携したカリキュラム編成や実習等の実施方法等について協議する。
- 海外との大学間協定に基づく、教員・学生の交流を通じて本学のグローバル展開を一層推進

第二期中期目標期間に係る主な業務実績（見込）の報告

中期計画

専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進

研究成果の社会還元【小項目2（1）研究：イ】

- 地域活性化に資する研究の推進【47】
- 産学官の協働関係・ネットワークの構築【48】

自己評価

ア：a

イ：b

令和3～4年度の主な実績

- 地域創生に資する拠点として、地域リサーチ&イノベーションセンターを設立し、民間企業や地元自治体との連携を推進した。
 - ・受託事業等として累計51件のプロジェクトが成立〔R3：21件、R4：30件〕
- 研究シーズ集や研究紀要「芸術文化観光学」を発刊し、研究成果を広く発信した。
 - ・研究紀要には原著論文3本のほか、研究ノート8本、活動報告5本などを収録

今後の取組予定

- 地域の企業、自治体、金融機関等からのニーズと教員の研究シーズのマッチングを促進し、地域との協働プロジェクトを展開。
- 研修実施などによる外部資金の導入支援やシンポジウム等での発表など、研究成果を積極的に発信し社会に還元する。

中期計画

大学が有する資源の活用・地域貢献の推進【小項目2（3）社会貢献：ア】

大学の長を生かした地域貢献の推進【小項目2（3）社会貢献：イ】

- 地域のイノベーション創出と新たな地域創生モデルの構築【49】
- 県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進【51】

自己評価

ア：a

イ：b

令和3～4年度の主な実績

- 但馬地域の高等学校等を対象に演劇的手法を活用し、多様性・協働性について考えるワークショップを実施〔R3：98回、R4：97回〕
- 「但馬トーク・アカデミー」と題したリカレント教育の公開講座や本学のネットワークを活用した一般教養型の公開講座「CAT市民公開講座」を実施

今後の取組予定

- 地域の企業、行政、地域住民等の主体と協働し、地域のイノベーション創出につながるプロジェクトを展開
- 大阪・関西万博等の観光客を兵庫県・但馬に誘客するなど、ポストコロナを見据えた自主事業や新たな地域連携事業のモデル構築に向けた取組を検討

【Topics】JAたじまと連携協定を締結



但馬地域における観光と農（食）のさらなる連携を促進し、産学連携協力の推進に係る協定を締結（R4.10）

【Topics】研究シーズ集を発行



教員の研究分野・領域・具体的な研究成果の一端を取りまとめたシーズ集を発行（R4.6）

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ 両分野の共同研究プロジェクト数の状況（件）

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	4	7
目標	各年度：5件			

・令和4年度実績において目標を達成

■ 公開講座の延べ受講者数（人）

	R元	R2	R3	R4
実績	—	—	85	299
目標	各年度：300人			

・令和4年度実績において目標をほぼ達成

第二期中期目標期間に係る主な業務実績（見込）の報告

中期計画 **社会ニーズの変化に対応できる体制の構築**【小項目第3、1(1)】 自己評価 **b**

- ダイバーシティの推進【61】

- 兵庫県立大学では、令和3年度に「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」「SDGs宣言」を发出し、それぞれの取組を積極的に推進。令和4年度、働きやすい職場環境づくりや女性の登用・定着促進に取り組む企業として、**ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ企業）の第1期認定企業に選定**された。

中期計画 **魅力発信と知名度向上**【小項目第3、1(2)】 自己評価 **b**

- 戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上【63】

- 大学の魅力を高める情報発信を行うため、**新たな広報媒体を作成・開設**（県民や企業関係者向けの冊子、コロナ禍で頑張る受験生を応援する特設サイト、本学の情報を広く発信するウェブマガジン、学生向けウェブマガジンなど）。また、両大学において**学長による記者会見を開催**。教育・研究・社会貢献活動の成果等をタイムリーに発表した。
〔県立大 R3：3回、R4：2回、専門職大 R3：4回、R4：4回〕



中期計画 **教育研究基盤への計画的な新規投資**【小項目第3、1(3)】 自己評価 **b**

- 最先端工学教育研究拠点の整備による世界水準の教育研究等の推進【64】

- 姫路工学キャンパスの新2号館（C棟）について、令和4年に建物が完成し、令和5年4月より供用を開始。また、全学でのBYODを円滑に導入するため、通信環境設備を整備した。



中期計画 **財務運営の改善**【小項目第3、3(1)】 自己評価 **a**

- ふるさとひょうご寄附金制度と連携した基金の充実【72】

- 兵庫県立大学基金、GBC留学生支援基金について、積極的にPR活動を展開し、広く寄附金を募った。加えて、グローバルビジネスコース留学生・トーカロ奨学金を制度化（R2）するとともに、附属中学校・高等学校応援基金、芸術文化観光専門職大学基金を新たに設置（R3）し、**基金の充実を図った**。〔R4受入 県大基金：1,500万円、GBC基金：220万円、附属学校基金：170万円、専門職大基金：100万円〕

今後の取組予定

- 大学専門業務を担う法人独自職員への置換計画の策定や各種制度の新設・改正、採用活動の実施など、事務局体制の強化を図る。
- 情報発信力を強化するためHPを刷新。教育・研究・社会貢献活動の成果を積極的に発信し、知名度向上やブランド構築を図る。

中期計画に定める評価指標の達成状況

■ **女性教員比率** (%)

	R元	R2	R3	R4
県立大	22.4	22.6	23.0	23.3
専門職大	—	—	25.0	25.6
目標	令和6年度：25%			

・県立大：残り2年間で9人（R5.4.1教員数で算出）取組を強化し、目標達成を見込む。
・専門職大：R4時点で**目標を達成**

■ **メディアに取り上げられた件数** (件)

	R元	R2	R3	R4	計
県立大	663	557	484	662	2,366
	各年度：600件				
専門職大	—	—	241	171	412
	期間累計：600件				

・県立大：令和4年度、**目標を達成**
・専門職大：残り2年間で188件（94件/年）。R5,6で**目標を達成する見込**

【参考】

■ **寄附金の受入実績** (万円)

	R元	R2	R3	R4	計
県立大	1,100	370	527	1,507	3,504
GBC	3,245	367	421	220	4,253
附属	—	—	154	167	321
専門職大	—	—	260	100	360

令和4年度及び第二期中期目標期間に係る業務実績評価

地方独立行政法人法第78条の2に基づき、令和5年度は以下 [1] [2] について自己評価を実施

[1] 令和4年度に係る業務実績評価 : 令和4年度の業務実績を自己評価

[2] 中期目標期間に係る業務実績（見込）評価 : 中期目標期間終了時に見込まれる業務実績（4年間の実績+残り2年間の見込）を自己評価
（中期目標期間6年間のうち4年目終了時に実施）

I 自己評価結果

[1] 令和4年度に係る業務実績評価：年度計画を順調に実施

令和4年度は、両大学の特色ある教育・研究・社会貢献活動に加え、社会環境の急激な変化に対応するために見直しを行った中期計画に基づき、GX、DX、SDGsに関する活動を積極的に推進した。

[2] 中期目標期間に係る業務実績（見込）評価：中期計画を着実に達成する見込

令和元年度～4年度は年度計画を順調に達成しており、残り2年間の進捗見込を踏まえると、第二期中期計画の着実な達成が見込まれる。

II 自己評価の状況（a：計画を上回って実施 b：計画を概ね実施 c：計画をやや下回っている d：計画を大幅に下回っている）

	[1]				[2]
1. 兵庫県立大学	R元	R2	R3	R4	見込評価
(1) 教育に関する措置					
アグローバル社会で活躍できる人材の育成	b	b	b	b	b
イ地域のニーズに応える専門人材の育成	b	c	b	b	b
ウ高度な専門性を有する人材の育成	b	b	b	a	b
エ総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	b	b	a	b	b
オ人材育成に向けた教育システムの充実	b	a	a	a	a
(2) 研究に関する措置					
ア高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	c	a	b	a
イ地域資源を活用した研究の推進	b	a	a	b	b
ウ兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進	a	a	a	b	a
(3) 社会貢献に関する措置					
ア未来社会を先導する産学官連携の推進	a	a	b	b	b
イ大学が有する資源の地域社会における活用	a	b	a	a	a
ウ次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進	b	b	b	b	b
a評価（計画を上回って実施）項目数	4	4	6	3	4

	[1]		[2]
2. 芸術文化観光専門職大学	R3	R4	見込評価
(1) 教育に関する措置			
ア芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成	b	b	b
イ地域活性化に貢献する専門職業人の育成	b	b	b
ウ世界に通じる専門職業人の育成	b	b	b
エ人材育成に向けた教育システムの構築	b	b	b
(2) 研究に関する措置			
ア専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進	a	a	a
イ研究成果の社会への還元	b	b	b
(3) 社会貢献に関する措置			
ア大学が有する資源の地域社会における活用	a	a	a
イ大学の特長を生かした地域貢献の推進	b	b	b
ウ芸術文化及び観光に係る国際交流の推進	b	b	b
a評価（計画を上回って実施）項目数	2	2	2

令和4年度及び第二期中期目標期間に係る業務実績評価

3. 両大学の教育、研究、社会貢献における連携	R元	R2	R3	[1] R4	[2] 見込評価
	—	—	b	c	b

4. 管理運営	R元	R2	R3	R4	見込評価
1 戦略的経営の推進に関する措置					
(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築	b	a	b	a	b
(2) 魅力発信と知名度向上	b	b	b	b	b
(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資	c	b	b	b	b
2 効率的経営の推進に関する措置					
(1) 経営資源の重点配分・相互利用	b	a	a	b	b
(2) 安全・快適な環境の計画的整備	b	b	b	b	b
3 自律的経営の推進に関する措置					
(1) 財務運営の改善	a	a	a	b	a
(2) 自己点検・評価及び情報の提供	b	b	b	b	b
(3) コンプライアンスの推進	b	b	b	b	b
a評価（計画を上回って実施）項目数	1	3	2	1	1

Ⅲ 自己評価結果のまとめ（年度評価（R元～4）・見込評価）

評価結果	R元	R2	R3	[1] R4	[2] 見込評価
a（計画を上回って実施）	5	7	10	6	7
b（計画を概ね実施）	13	10	19	22	22
c（計画をやや下回っている）	1	2	0	1	0
d（計画を大幅に下回っている）	0	0	0	0	0
合計	19	19	29	29	29

（参考）自己評価の方法

[1] 令和4年度に係る業務実績評価

1 取組事業（113事業）の評価

令和4年度計画に掲げた113事業の取組状況を検証し評価

評価	評価の基準	（計画達成度）	事業数	事業数			
				県立大	専門職大	両大学の連携	管理運営
◎	計画を上回って実施	（100%越）	16	10	4	0	2
○	概ね計画どおり進行	（90%以上）	95	57	16	1	21
△	計画をやや下回っている	（70%以上）	2	0	0	2	0
×	計画を大幅に下回っている	（70%未満）	0	0	0	0	0
合計			113	67	20	3	23

2 小項目（29項目）の評価

1の評価をもとに、中期計画の小項目（29項目）ごとに総合的に検証し評価

評価	評価の基準	小項目	小項目				
			県立大	専門職大	両大学の連携	管理運営	
a	計画を上回って実施	◎：25%以上 △・×：なし	6	3	2	0	1
b	概ね計画どおり進行	◎：25%未満 △・×：なし	22	8	7	0	7
c	計画をやや下回っている	△：1つ以上	1	0	0	1	0
d	計画を大幅に下回っている	×：1つ以上	0	0	0	0	0
合計			29	11	9	1	8

[2] 中期目標期間に係る業務実績（見込）評価

1 小項目（29項目）の評価

令和元年度～4年度の年度計画の実施状況・自己評価結果に加え、令和5、6年度の取組予定を考慮のうえ、

a～dの4段階により中期計画の小項目（29項目）ごとに総合的に検証・評価